

新規 I G R 剤ブルート MC によるクワシロカイガラムシ休眠期の防除効果と天敵への影響					
<p>[要約]</p> <p>I G R 剤ブルート MC による、クワシロカイガラムシの第 3 世代休眠期防除は、従来の第 1 世代孵化定着期防除と同等の防除効果が得られ、天敵への影響は少ない。</p> <p>本剤を用いた防除の場合、クワシロカイガラムシの長期密度抑制が可能であり、また、生態的な防除適期の判断に基づくことなく効率的な防除を行うことができる。</p>					
佐賀県茶業試験場・茶樹研究担当				連絡先	0954-42-0066
部会名	茶業専門部会	専 門	病害虫	対 象	茶

[背景・ねらい]

茶難防除害虫であるクワシロカイガラムシの寄生部位は、葉層下の枝条部で目立ちにくく、薬剤による防除適期は、各世代の孵化幼虫期頃であるが、成育が気温の影響を受けることから地域差が大きく、現地における防除適期の判断が難しいことから、安定した防除効果を得られていない状況にある。

そこで、新たな活性を有するブルート MC を用いて、従来の防除適期の判断を必要としない、クワシロカイガラムシ休眠期防除の評価を行う。

[成果の内容・特徴]

- 1 . 本剤のクワシロカイガラムシ第 3 世代成虫の休眠期防除は、従来のスプラサイド乳剤による第 1 世代孵化定着期防除と同等の防除効果が得られる (図 1) 。
- 2 . 本剤によるクワシロカイガラムシ休眠期防除により、第 3 世代までの密度抑制効果が得られる (表 1) 。
- 3 . 本剤によるクワシロカイガラムシ天敵 (寄生蜂) への影響はほとんど認められない (表 2) 。
- 4 . 本剤によるクワシロカイガラムシ休眠期防除により、従来の防除適期を予測するための煩雑な孵化卵塊率調査等が不要になる。
- 5 . 本剤による休眠期防除は茶の農閑期にあたり、栽培管理作業との競合が回避される (図 2) 。

[成果の活用面・留意点]

- 1 . クワシロカイガラムシの効率的な防除技術として活用できる。
- 2 . 農薬登録：2007 年 12 月 28 日 適用は、作物名：茶 適用害虫名：クワシロカイガラムシ 希釈倍数：1,000 倍 使用液量：1,000L/10 a 使用時期：成虫越冬休眠期 (一番茶摘採 45 日前迄、但し萌芽前迄使用回数 1 回) である。
- 3 . ブルート MC (ピリプロキシフェン剤) は蚕に対する長期毒性があるため、半径 10 km 圏内に桑園や養蚕施設がある地域では使用が規制され、使用後の空き容器の回収が義務づけられる。
- 4 . ブルート MC の散布時期は一番茶摘採前のため、枝条更新との組み合わせ処理が困難であることから十分量を散布斑のない様に処理する。

[具体的データ]

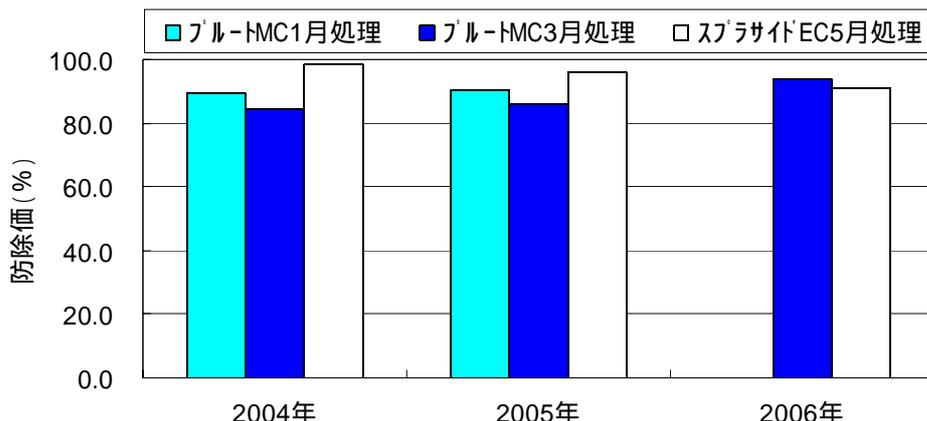


図1 クワシロカイガラムシ第1世代に対する防除効果(スプラサイドは孵化調査による適期防除)

表1 クワシロカイガラムシに対する長期密度抑制効果

供試薬剤 (処理時期)	散布 濃度(倍)	クワシロカイガラムシ第3世代雄繭発生量(指数)		
		2004年	2005年	2006年
ブルトMC(1月処理)	1,000	0	0	-
ブルトMC(3月処理)	1,000	0	0.02	0
スプラサイド EC40(5月処理)	1,000	0.13	0.17	0.02
無処理	-	0.12	0.05	0.68

注1) 越冬～第1世代防除後の第3世代雄繭発生量を示す(指数:日植防調査法に準ずる)

表2 クワシロカイガラムシ天敵類に対する影響

供試薬剤 (処理時期)	散布 濃度(倍)	クワシロカイガラムシ天敵類		
		イトビコバチ	サルメツヤコバチ	ナセツビコバチ
ブルトMC(3月処理)	1,000	433	2,346	63
スプラサイド EC40(5月処理)	1,000	387	90	29
無処理	-	625	482	31

注) 吸引粘着トラップ(13 × 13 cm)吸引数の積算(調査期間 2006年3月15日～9月26日)

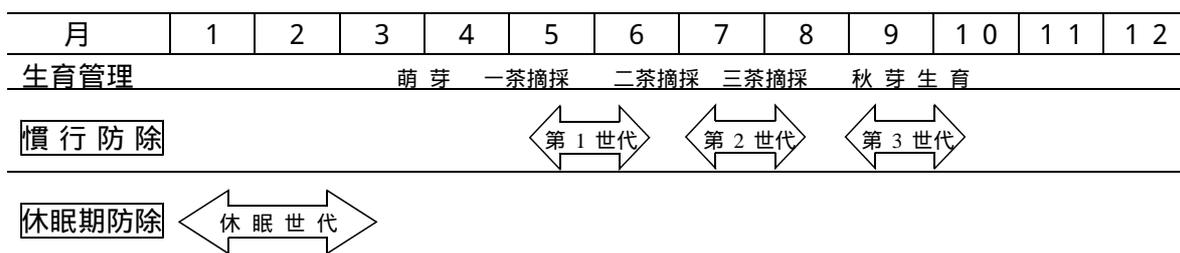


図2 クワシロカイガラムシ防除時期の比較

[その他]

研究課題名: 茶病虫害の効率的防除

予算区分: 受託

研究期間: 2004～2006年度

研究担当者: 釘本和仁、東島敏彦、山口史子

発表論文等: 平成18年度日植防特別連絡試験成績書